



勤務医時代の経験を生かし、 質の高い検査で確実な診断を

2015年7月取材

愛知県尾張旭市
医療法人 いながきクリニック 院長
稲垣均先生

いながきクリニックの院長を務める稲垣均先生は、消化器外科医として、中規模病院で特に胃がんや大腸がんなど、消化器疾患に対する腹腔鏡手術を専門的に行う一方で、術後管理や抗がん剤治療も担っていました。そのため、患者さんの全身も診ることができます。先生は、こうした経験を生かし、手術を要する疾患について精度の高い診断ができるクリニックが地域にあれば、患者さんの役に立てるのではないかと考えて開業したそうです。

信頼を少しずつ積み上げる

同クリニックがあるエリアは高齢化が進んでおり、高血圧症、脂質異常症、糖尿病といった生活習慣病の患者さんが多く来院します。「勤務医時代に携わっていた外科では手術があるため、最初から患者さんが命を預けてくださるつもりでいるので、こちらの誠意も伝わりやすく、人間関係をつくりやすい環境にありました。しかし、内科疾患の患者さんとは、時間をかけ、信頼を少しずつ積み上げるなどして初めて心を許せる関係が持てます。開業して1年半、今はそうした関係をつくっているところです」。稲垣先生は患者さんを自ら呼んで診察室に迎え入れ、血圧測定なども看護師に任せず自身で行います。患者さんとの対話も大切にしている先生に、厚い信頼を寄せる患者さんは確実に増えていくことでしょう。



16列マルチスライスCTは、低X線量で高精細な画像を得られる新しいタイプで、消化器に限らず全身の診断において活躍しています。

基幹病院並みの検査を実施



勤務医時代には腹腔鏡下での胃がん手術を多数行っていたので、胃カメラによる検査は最も得意とする分野です。

生活習慣病や一般内科の患者さんの他に多いのが、稲垣先生の専門である消化器疾患の患者さんです。同クリニックには、CTをはじめとして胃カメラ・大腸カメラ、エコーなどの機器がそろい、しかも先生は、それらを使っての検査に習熟しているので、基幹病院並みの検査が受けられます。「クリニックで診察を受けると、CTの撮影などをするために設備のある病院を紹介されることが多々あります。検査のためだけに別の医療機関に行くのは、特に高齢の患者さんには負担になるでしょう。その負担を少しでも減らし、快適に検査を受けてもらいたいと、多様な医療機器を導入しました」。現在、胃カメラの検査はほぼ毎日、大腸カメラの検査は週2日程度その他、大腸ポリープの日帰り手術も行っています。先生は、今後まだまだ件数を増やしたいと意欲的です。

内科ベースで外科の力を発揮したい

高齢の患者さんが多いエリアなのは前述した通りですが、一方で健康寿命が長いという特徴があります。稲垣先生はその特徴をより向上させたいと考えています。そこで導入しているのが、オゾン療法(血液クレンジング:約100ccの血液を脱血し、そこにオゾンガスを混合し、オゾンにより活性化された血液を体の中に戻す治療法)です。この療法は、抗がん剤治療の補助療法として用いられることもあります。「めざすは、内科ベースで外科の力を発揮するクリニックです」。目標達成に向けて、先生はさまざまなチャレンジを続けています。



先生は診察室のドアを開けて待合室の患者さんを呼ぶところから問診のスタートと考え、患者さんと真摯に向き合っています。